

- 沖縄タイムス
- 琉球新報
- その他 ()
- みらいファンド
- NPO
- CSR
- 協働
- 寄付・基金
- その他

内容: 国頭 森の美術館開所

第3種郵便物認可

木のぬくもり子育てに

国頭 森の美術館が開所

【国頭】やんばる森のおもちゃ美術館が2日、村辺王名の村森林公園内に開館した。リュウキユウマツやイタジイなど地元の木材に触れて遊べる県内初の体験型施設で、開館初日から多くの親子連れでにぎわった。同日、東京おもちゃ美術館と姉妹館協定を締結。子供が木に触れながら育つ環境を整えるため、村は新生児誕生祝いに木のおもちゃを贈る取り組み「ウッドスタート」に乗り出した。ウッドスタートの導入は、全国の自治体で6番目。



村、新生児におもちゃ贈る

館内にはヤンバルクイナの卵型のおもちゃが入ったプールや6種の木で作った積み木などが並ぶ。来館した子供たちはおもちゃを手に取ったり遊具に登ったりと大はしゃぎ。友達と訪れた新里沙優さん(9)は「木のおもちゃで遊ぶのは初めて。プラスチックのおもちゃと違っていい匂い」とほほ笑んだ。

開館には村森林組合や県内のおもちゃ作家、東京おもちゃ美術館を運営するNPO法人グッド・トイ委員会などが協力。木のおもちゃの購入には、全国の「一口館長」約500人から一口1万円以上の寄付で集まった約600万円が充てられた。年間12万人が来場する東京おもちゃ美術館との交流も進める予定。

本年度生まれた子供に宮城村長(右)から木のおもちゃが手渡された11月2日、やんばる森のおもちゃ美術館

から本年度に生まれた村内の赤ちゃん10人に、木のおもちゃが贈られた。受け取った金城ダンテイ琉和君の母ちさきさん(26)は「木のおもちゃはいい匂いで、作りがしっかりしている。これでいっぱい遊ばせたい」とうれしそうだった。

東京おもちゃ美術館の多田千尋館長は「東京にはない、やんばるならではの世界観が

できあがった」と評価。宮城村長は「国頭の新鮮な空気と青々として木々に囲まれた空間で、のんびりとした時間を過ごし、木の良さを再認識して『木づかい』運動を推進していきたいでしょう」と呼び掛けた。

入館料は来年3月末まで無料。開館時間は午前10時から午後4時まで。定休日は火曜日と年末年始。



木のおもちゃで遊ぶ子供たち